

ふうきんとう

瞳きらきら にこにこ笑顔

十日町市立下条小学校
令和5年3月3日
学校だより第11号

一方で“そうでない”という見方・考え方

校長 戸田 孝之

物事には『3・4・3』の法則がある、と考える人がいます。ここでいう『3・4・3』は、ある物事を決める時、あるいは決まった時に、賛成する人が3割、「どちらでも」という人が4割、反対する人が3割存在するという考え方です。（ちなみに別な意味合いでの3・4・3の法則、また、2・6・2の法則なるものもあるようです。）

実際に何割かは別として、100か0かというはっきりしたこと以外は、必ずと言っていいほど賛成派と反対派が出てきます。私がここで書きたいことは、賛成・反対がどうこうというのではなく、「一方で“そうでない”という見方・考え方がある」ことを大事にしたいということです。自分は賛成（反対）だけど、反対派（賛成派）の見方や考え方も理解しようと努めることが大事であるということです（必ずしもそうでない場合もありますが）。また、賛成・反対だけでなく、物事を“そうでない”側で見たり考えたりすることが大事になることがよくあります。以下、2つの例から考えてみましょう。

《学校評価や各種アンケート等》

評価やアンケート結果が良いと、安心したり嬉しくなったりするのは人情でしょう。学校評価における保護者アンケート「お子さんは、『学校が楽しく、好きだ』と言っている。」の肯定的評価は、1学期91.5%、2学期91.3%です。また、児童アンケート「学校が楽しく、好き。」の肯定的評価は、1学期94.9%、2学期94.6%です。単純な数値としてはとても高く、安心してしまいがちです。しかし、私が職員によく話していることは、「少数であっても、“そう答えていない”人がいることをしっかりと受け止めなくてはいけない。」ということです。肯定的に答えられない理由はどんなことが考えられるか、そのために今後どのようなことをしていけばよいのか等考察し、案を練っていく必要があります。



《マスク着脱の賛否や密の回避等》

マスクの着用は、今や“日常”になっていますが、他国では既にマスクを必要としていない国が多くあります。日本でも今後、加速度的に不要となっていくことが考えられます。人数制限等も然り。しかし、テレビの報道等によく見かけるように、卒業式の参加をはじめ、人々の反応としては現時点で賛否両論、正に『3・4・3』といったところでしょうか。当分は着用を続ける人が多いように思われますが、自分とは違う“そうでない”考え方は尊重すべきことです。

先日、十日町市教育委員会からのお知らせ「卒業式におけるマスクの取り扱いに関する考え方について」を配付しました。当校も基本的な方針に則って式を実施する予定ですが、「マスクを着用しないこと」は、全くの個人・ご家庭の判断であり、強制ではありません。マスクを着けているように着けていまいが、偏見をもつことのないようにすることが大事です。また、会場となる多目的ホールも、随分狭いスペースになります。感染症対策を十分に講じたうえでも、人数の制限、例外を除いての卒業生以外のマスクの着用はする予定です。意味合いは違いますが、会場についても、“そうでない”という見方や考え方が必要になります。

一方で“そうでない”という見方や考え方は、より深く物事を見る・考える、よりよく相手のことを理解する、差別や偏見をもたない等、大事なことが多くあります。様々な場面や状況の中で、自己中心にならず、違った見方・考え方が理解できるよう努めていきたいものです。

4月早々に、入学式の延期が決まったのスタートとなった令和4年度。新型コロナウイルスの感染状況が一向に好転せず、今年度も多くの制限・制約がありました。そんな中でも、子どもたち一人一人が多くの頑張りをを見せてくれました。子どもたちの頑張りを支えていただいたのは、ご家族の皆様、地域の皆様です。皆様の多大なるご理解とご協力に感謝いたします。今年度も残りわずかとなりましたが、今後ともよろしくお願いいたします。

